



第5章 関連文化財群と文化財保存活用区域

1. 関連文化財群

(1) 関連文化財群設定の考え方

関連文化財群とは、指定・未指定を問わず多種多様な有形・無形の文化財を、歴史的・文化的・地域的な関連性やテーマにもとづいて、一定のまとまりとして捉えたものである。関連文化財群を設定することにより、本市域の歴史や文化の魅力や文化財の価値を市民や来訪者に分かりやすく伝えるとともに、さまざまな分野や立場の人が連携することで、文化財の保存・活用をまちづくりにつなげていくための取組みが促進されることが期待される。

関連文化財群の設定にあたっては、「坂井市の歴史文化の特徴」（第3章）で整理した5つの大テーマおよび13の小テーマを踏まえた。設定の基準は以下の3点とし、9つの関連文化財群を設定した。

- a) 坂井市の歴史文化の特徴を反映したものとする。
- b) まちづくりの観点から、保存・活用が可能な文化財群から構成するものとする。
- c) 市民や団体による活動と接点を持ち、生活者としての市民の実感に近い「おたから」を含むものとする。

なお、とりわけ基準 c) については、本計画作成の一環として実施した「おたから」調査やワークショップの成果を反映することに努め、構成要素の抽出を行った。

大テーマ	小テーマ	関連文化財群
1 越の国の中枢・坂井平野の形成	1.坂井平野の形成と越の大首长墓群の展開	①継体大王伝承の地と坂井市(坂中井)の起源
	2.荘園の成立と大規模用水の発展	②水が育んだ恵みと坂井平野の稲作文化
	3.白山信仰の興りと一向一揆	③地域の紐帯をささえる暮らしの中にある信仰
2 自然とともにある暮らしと信仰	4.コミュニティに息づく信仰・習俗	③地域の紐帯をささえる暮らしの中にある信仰
	5.海の恵みと祈りの文化	④神の島・雄島を抱く海とともにある暮らし
	6.山林を生かした生業と風景	⑤里山・里川に育まれた赤瓦集落・竹田
3 丸岡藩の成立とその時代	7.豊原寺の滅亡と丸岡城の築造	⑥丸岡城下町の形成と丸岡藩ゆかりの文化
	8.城下町の形成と丸岡藩領の展開	
4 三国湊の繁栄と交流・交易がもたらした文化の醸成	9.三国湊につながる海の道・川の道と交流・交易	⑦北前船交易がもたらした湊町三国の発展
	10.文学者・芸術家の活躍	⑧文学者・芸術家を魅了したゆたかな自然が織りなす風景
5 鉄道の開通と近代産業の発展	11.三国湊の近代化	⑨鉄道の開通と近代に開花した坂井市の産業と文化
	12.鉄道の開通と繊維産業の隆盛	
	13.大震災からの復興	

図 29 坂井市地域計画の9つの関連文化財群

(2) 坂井市関連文化財群の空間的分布特性と保存・活用の方向性

9つの関連文化財群は、それぞれの構成文化財の空間的な分布特性から、

【1】構成文化財が市内の各集落に根ざした関連文化財群：③

【2】構成文化財が市域の広範囲にまたがる関連文化財群：①・②・⑧・⑨

【3】構成文化財が特定のエリアに集中し、特に顕著な地域特性を示す関連文化財群：④・⑤・⑥・⑦

の3つに分けて整理することができる。

【1】の群は、市民の暮らしにとって最も身近な文化財群であるとともに、本市におけるあらゆるおたからの保存・活用を図る上で不可欠な地域の精神的基盤ともなる。各集落に根ざした年中行事や祭礼を継承することは、人々の結びつきを深め、地域の愛着を醸成することにつながると考えられるが、担い手の不足が課題となっている。地域が主体となって行われる保存・活用に関わる活動を積極的に支援していくことが必要である。



写真 59 竹田地区の道場で行われている講

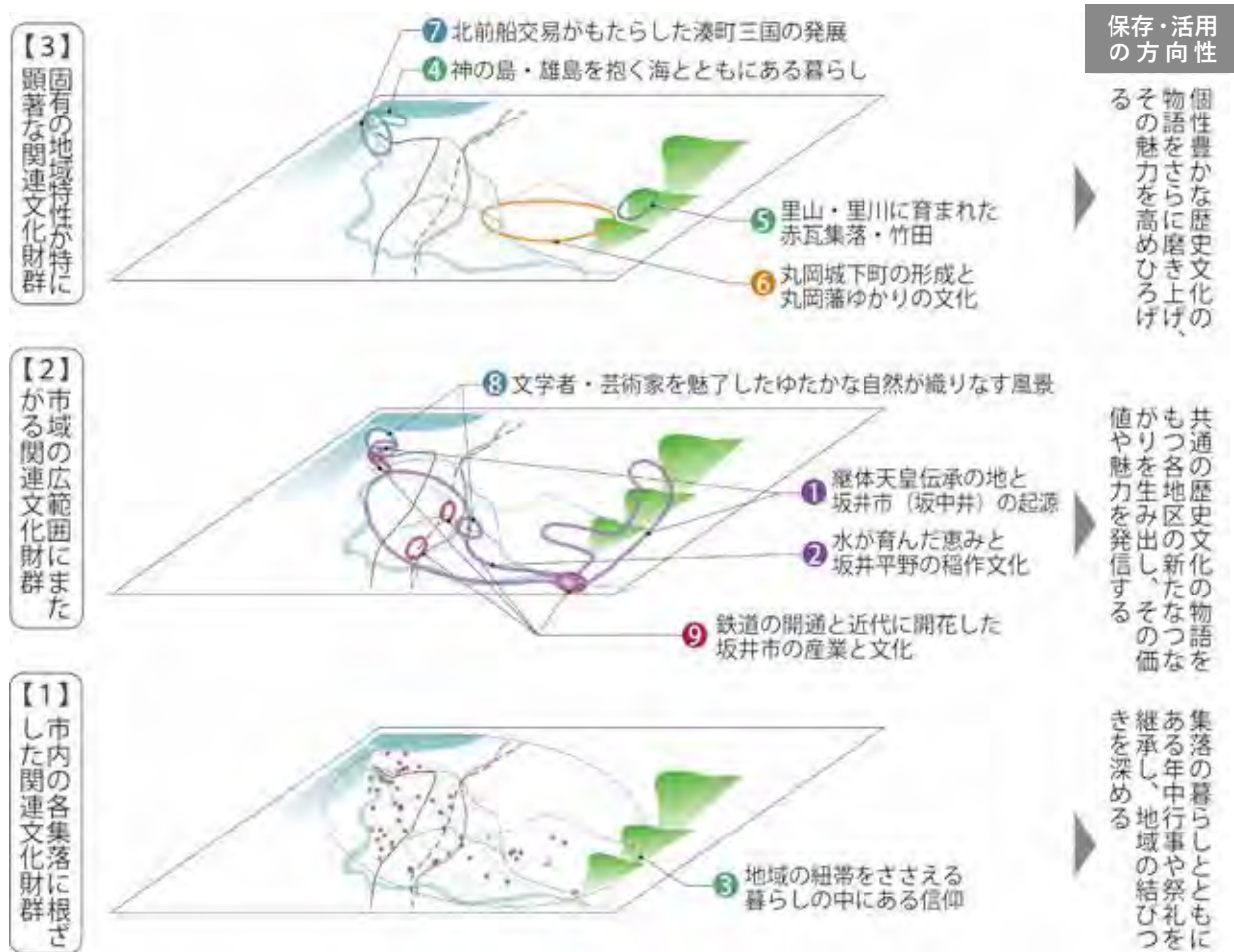


図 30 坂井市の関連文化財群の空間的分布特性と保存・活用の方向性

【2】の群は、これまで主にまちづくり協議会の単位でウォークイベントや体験行事などを通じて掘り起こしや発信が行われてきた文化財群であるが、関連文化財群の設定により市全域から見つめ直すことで、新たな発見やさらなる魅力づくりの可能性を有していることがワークショップなどを通じて明らかになった。共通の歴史文化の物語をもつ複数のまちづくり協議会が連携するなどして、各地区の新たなつながりを生み出し、協働してその価値や魅力の発信に取り組む。



写真 60 雄島地区まちづくり協議会で実施した「おたから」の掘り起こしワークショップ

【3】の群は、市の代表的なおたからを核として、観光資源としての活用も進んでいる文化財群である。関連文化財群を設定することで、多様なおたからの価値を総合的に捉え直すとともに、各地の保存・活用に関わる団体や専門家、他部局との連携を図りながら、個性豊かな歴史文化の物語をさらに磨き上げ、その魅力を高めひろげる施策へと展開していく。



写真 61 三國神社（三国町山王）

(3) 関連文化財群のストーリーと構成文化財

① 継体天皇伝承の地と坂井市（坂中井）の起源

《ストーリー》

古墳時代の4～6世紀にかけて築かれた、代々の越の国の大首長墓群と、越前平野の治水伝説で知られる継体天皇ゆかりの地を主要な構成文化財とする関連文化財群であり、越の国の中枢を担った本市域の起源として捉えられる。また、旧石器時代の出土品や縄文・弥生時代の集落遺跡の存在は、本市域における人々の暮らしの萌芽を示す。

《主な構成文化財》

■ 丸岡山麓部の大首長墓群と海を見下ろす三国の古墳群

丸岡山麓部の大首長墓群は、北陸地方最大規模の前方後円墳である六呂瀬山一号墳を有する六呂瀬山古墳群（国指定史跡）を代表とする。六呂瀬山古墳群は、九頭竜川から取水口である鳴鹿大堰（丸岡町鳴鹿）にほど近く、九頭竜川が形成した坂井平野を一望する本市の南東端に位置する。そこから北西に弧を描くように丸岡町東部山麓の尾根や山際、さらにはあわら市との境界にかけて、大小の古墳群が分布する。椀貸山古墳（県指定史跡）、^{ぜにがめ}銭瓶古墳（市指定史跡）や川上古墳（市指定史跡）といった指定文化財だけでなく、赤坂古墳群、女形谷古墳群など未指定文化財も多数存在する。

また、日本海に面する三国町域の北部丘陵部には、公園整備されている出世山古墳群や^{つばき}椿塚古墳、^{づか}梶古墳や^{かじ}狐塚古墳群などが分布するが、いずれも未指定文化財である。六呂瀬山古墳群や出世山古墳公園から平野や海、湊を見下ろす眺望は、こうした古墳群の立地の重要性を物語るとともに、観光にも活用できるおたからである。

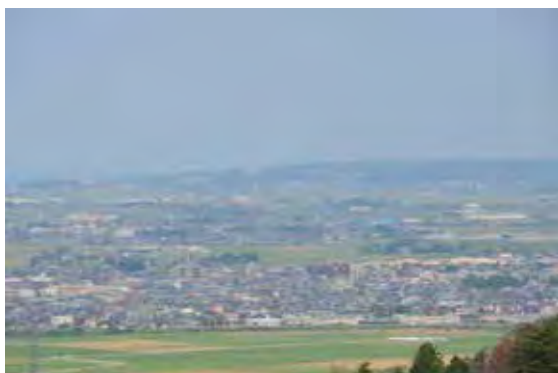


写真 62 六呂瀬山古墳群から見下ろす坂井平野



写真 63 出世山古墳公園（三国町新宿）

■ 継体天皇ゆかりの地

坂井市域には、三國神社や神明社、^{いき}伊伎神社（いずれも三国町）、^{くめだ}久米田神社や^{ふくろ}布久漏神社、^{たかむく}高向神社（いずれも丸岡町）、^{おさだ}長田神社（春江町）など、継体天皇やその関係者を祀る多くの神社が市内各地に存在する。また、大和からの使者・大伴金村と会見した場所と伝わる丸岡町女形谷のてんのう堂（市登録史跡）、人々を水害から救済するため、男大迹王（継体天皇）が九頭竜川治水の指揮にあたった際に使ったと伝わる春江町石塚の石塚神社岩座（市登録歴史資料）や、琵琶姫との間に生まれた千鶴姫の産湯に使われたとされる春江町西長田の^{ながた}長田池（未指定）、三国町梶に伝わる腰掛け石（未指定）など、継体天皇に関する伝承地が市内各

地に存在する。また、継体天皇の母・振媛が幼少期の男大迹王を養育した場所と伝わる高向の宮跡（丸岡町高田）や、振媛終焉の地・童子之城どうじのしろがあった春江町姫王に、振媛ゆかりのおたからが存在している。



写真 64 高向神社（丸岡町高田）



写真 65 振媛終焉の地・童子之城（春江町姫王）

■古墳時代以前の人々の暮らしの痕跡

坂井市域における人々の生活の痕跡としては、旧石器時代や縄文時代の集落遺跡が発見されており、弥生時代に入ると春江町井向で銅鐸が出土したほか、河和田遺跡（坂井町）や加戸下屋敷遺跡（三国町）で玉作工房跡が発見されている。

《保存・活用に関わる活動・団体や拠点施設》

丸岡町鳴鹿地区の住民を中心とする「六呂瀬山古墳群&鳴鹿大堰を愛する会」によって、六呂瀬山古墳群の草刈りや見廻りなどの維持管理、継体天皇の顕彰など幅広い活動が行われてきた。また、平成元（1989）年からは六呂瀬山古墳群の保存整備の促進と地域内への周知を目的に、「越まほろば物語巫女の舞」が平成 30（2018）年まで行われた。現在は中止しているが、六呂瀬山古墳群や継体天皇に関する地元住民の関心は高く、現在は鳴鹿コミュニティセンターを拠点に、鳴鹿まちづくり推進協議会が中心となって歴史学習やまちづくり活動が行われている。

また、三国町では出世山古墳公園が古墳文化発信の拠点となるが、施設の老朽化が進んでいる。

②水が育んだ恵みと坂井平野の稲作文化

《ストーリー》

奈良・平安時代から平野部に形成された大規模な荘園を由来とする神社や集落、水との共生により蓄積された歴史文化や、コシヒカリのふるさとである当地域の豊かな稲作文化に関する行事などを主要な構成文化財とする関連文化財群。県内最大規模の用水で、坂井平野の穀倉地帯形成の礎となった十郷用水をはじめ、用水や河川に関するおたから、豊かな水が育んだ食に関する行事や風習など市域に広く分布する。

《主な構成文化財》

■坂井平野を潤してきた一大用水網

興福寺領の広大な荘園である河口荘十郷（本庄・新・王見・兵庫・大口・新庄・関・溝江・荒居・細呂木）の田畑の用水となった十郷用水は、奈良時代の開削後江戸時代に至るまで分水が進められ、県内最大規模の用水網が形成されていった。十郷用水は近年パイプライン化されたが、約千年にわたり坂井平野を潤してきた用水に関するおたからとして、十郷用水の恵みと収穫の感謝、五穀豊穰を祈って布久漏神社（丸岡町北横地）で行われる神事「表児の米」（県指定無形民俗文化財）、鳴鹿大堰絵図（みくに龍翔館所蔵・未指定）のほか、江戸時代、新江用水の開削に尽力した加賀浪士・渡辺泉龍の功績を顕彰し、丸岡藩主の祈願所であった直乗院（丸岡町女形谷）にその名を刻んだ石碑（市指定史跡）などがある。また、近世に用水管理を担った「井奉行」を務めた土肥家（丸岡町上金屋）に伝わる古文書（未指定）も、用水に関連する歴史文化を伝える貴重なおたからである。

また、十郷用水の成立に春日明神の使いである鹿の導きがあったとする伝承を裏付けるかのように、市内には「十郷十社」をはじめ春日神社が各地に存在する。坂井町東荒井の春日神社の木造阿弥陀如来坐像（県指定彫刻）や文書（未指定）、三国町藤沢春日神社の新嘗祭（未指定）など、各地に春日信仰に関連する様々なおたからが伝わっている。



写真 66 春日神社 木造阿弥陀如来坐像
(坂井町東荒井)



写真 67 十郷用水や鳴鹿大堰に関する事柄などが書かれた用水御用記録（個人蔵）

■坂井平野を貫く河川と治水の歴史

九頭竜川と兵庫川に挟まれた「鬼辺郷」（坂井町坂井木部地区・春江町大石地区・三国町三国木部地区）に形成された鬼辺輪中の様子は、「鬼辺輪中絵図」（個人蔵・未指定）に克明に描写されている。木部堤防や春江堤防などは、明治30年代から始まった九頭竜川の改修によってほとんどが失われたが、辻や姫王（いずれも春江町）などに一部の痕跡が残っている。また、鳴鹿大堰の近代化に大きな功績を残した酒井利雄氏の自邸である酒井家住宅（丸岡町楽間・未指定）は、大正後期から昭和初期にかけて建築されたもので、当初の状態をよく残している。



写真 68 江戸時代の堤防跡
(春江町辻)



写真 69 酒井家住宅（丸岡町楽間）

■稲作や水・食文化

「コシヒカリのふるさと」と呼ばれるほどの穀倉地帯である坂井平野には、特徴的な田の神祭り（アイノコト）が伝わっており、坂井町の島や今井のアイバの祭り（いずれも未指定）などが現在も行われている。

丸岡町鳴鹿地区（上久米田・下久米田・東二ツ屋・楽間・六呂瀬）には、越前型農家の特徴を有する住宅が多数確認されており、庭園や後背の山並みと一体となった集落景観が見られる。

また、本市は湧水も豊富で、とりわけ丸岡町には名水百選にも選定されている小和清水（上久米田）や椿清水（弘法清水）（川上）、独鈷清水（山口）などがある。湧水を活かして約260年余り酒造りを続けてきた久保田酒造（丸岡町山久保）は市内唯一の造り酒屋で、特に離れや庭園はいずれも未指定であるが、今後文化財としての保存・活用が期待される。

《保存・活用に関わる活動・団体や拠点施設》

「表児の米」は、丸岡町北横地の布久漏神社と表児の米研修会館で実施される。また、春江西コミュニティセンターでは、越前打ち込み太鼓こども教室を開催し、次世代への継承がはかられている。

各まちづくり協議会でもさまざまな活動が展開されている。兵庫地区まちづくり協議会では、奈良興福寺への献米や地酒「淵龍」の企画開発といった特徴的な活動を積極的に展開している。また、たかむくのまちづくり協議会では、西大寺へのお米送り事業を実施しているほか、坂井木部まちづくり協議会では地元小中学校生に向けて米づくりと農村文化伝承事業に取り組んでいる。

また、九頭竜川下流域国営パイプラインの水で育まれた農産物のブランド化を図るため、坂井地区農業振興協議会では「くずりゅう千年耕園」と名付け、美味しく高品質な収穫物の産出を目指した取組みが行われている。

酒井家住宅については、近隣住民の協力により日頃から清掃や管理が行われている。

■関連する人物一覧

石墨慶一 酒井利雄 坪田仁兵衛 渡辺泉龍



写真 70 表児の米（丸岡町北横地）

関連文化財群② 水が育んだ恵みと坂井平野の稲作文化

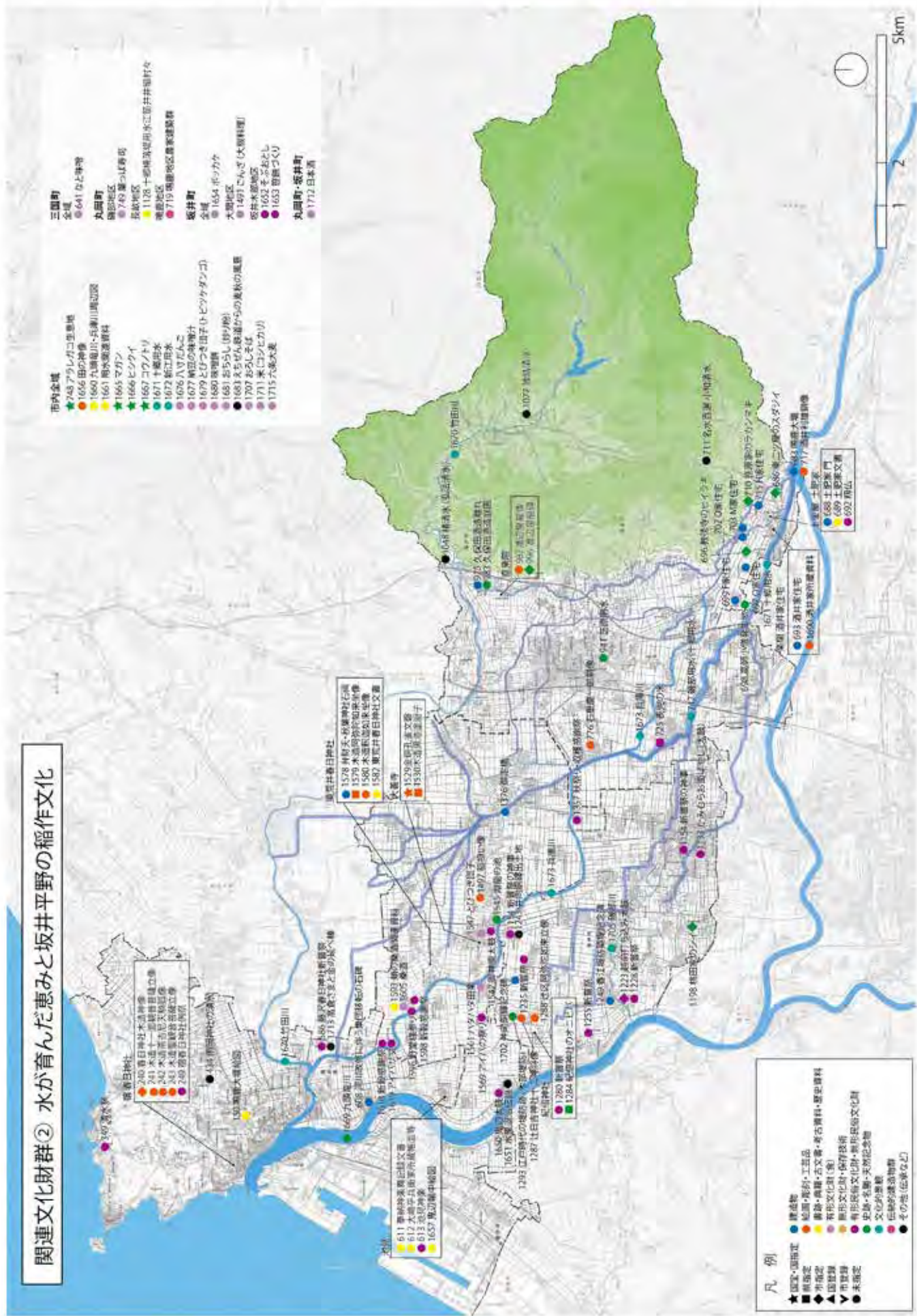


図 32 関連文化財群②「水が育んだ恵みと坂井平野の稲作文化」構成文化財位置図

③地域の紐帯をささえる暮らしの中にある信仰

《ストーリー》

霊峰白山を開いた僧・泰澄開創の由緒をもち、中世の一大宗教都市として栄えた豊原寺をはじめとする白山信仰に関するおたから、街道を通じて列島各地からもたらされた時宗や真宗などが入り混じった結果形成された重層的で多様な宗教文化、各集落で受け継がれているさまざまな祭礼行事や習俗などを包括する関連文化財群。とりわけ、集落単位で行われている祭礼行事は、地域コミュニティの基盤ともなっており、その継承は地域での暮らしの持続性にも密接につながるものである。

《主な構成文化財》

■白山信仰

坂井市域における白山信仰の拠点となったのが豊原寺（丸岡町豊原）であり、豊原家に伝わる豊原寺ゆかりとされる仏像などの美術工芸品や古文書などが豊原三千坊史料館に収蔵展示されているほか、豊原寺跡（市指定史跡）の出土品をはじめ貴重な歴史資料が数多く確認されている。いずれも廃寺となったものの、豊原寺の他にも吉谷寺跡（丸岡町山口・市指定史跡）や白山千手寺跡（三国湊城跡）（三国町山王（観音）／未指定）などの白山信仰に関するおたからが存在する。



写真71 豊原三千坊史料館（丸岡町田屋）



写真72 白山千手寺跡(三国湊城跡)(三国町山王)

■中世寺院に伝わる美術工芸品

交通の要衝でもあった丸岡町長崎に鎌倉時代末期に進出し、時宗の越前における中心寺院として繁栄したのが称念寺である。絹本著色他阿上人真教像（国重要文化財（絵画））や卷子本浄土三部経（県指定書跡・典籍・古文書）をはじめとする歴史資料群、石造多層塔（市指定建造物）など、多数のおたからを有している。

また、三国湊における南北朝期の真言寺院を代表する寺が性海寺（三国町南本町（東下西））と瀧谷寺（同滝谷（浜滝谷））である。朝倉氏をはじめとする歴代国主によって厚く崇敬され、多くの仏像や絵画、古文書などの貴重なおたからを今に伝えている。とりわけ、瀧谷寺の金銅宝相華文磬は市内唯一の国宝（工芸品）である。

■浄土真宗信仰

「真宗王国」と称されるように、越前では浄土真宗信仰が広く浸透しているが、真宗布教の拠点となった吉崎にほど近い本市域も例外ではなく、真宗の講や仏事が集落単位で行われ、現在も人々の暮らしにとって身近な存在として息づいている。秋の報恩講では、各寺院に檀信徒が集まり、法要が行われている。特に、北陸街道沿いで本市域の南端部に位置する春江町寄安には親鸞ゆかりとされる「黄楊の旧跡」があり、毎春京都の東本願寺から吉崎別院に向けて蓮如上人の御影像が運ばれる「御影道中」の休息所として接待が行われている。



写真 73 黄楊の旧跡（春江町寄安）

■市内に広く分布する祭礼行事

報恩講のほかにも、左義長（どんど焼き）や地蔵祭・地蔵講が市内全域に広く分布している。また、正月上旬には三国旧市街地や新保では、各集落で歳徳神の祭礼が行われているほか、各家で天神像に鯉を飾るといふ当地域独特の天神講も、正月の風物詩として市内各地に根づいている。

《保存・活用に関わる活動・団体や拠点施設》

集落の神社が祭礼行事などの拠点となっているほか、集落単位で行われてきた真宗の講は、現在では区民館にその機能が引き継がれているところが多いものの、現在も道場で行われているところもある。

豊原寺関連では、豊原家に伝わる文化財が豊原三千坊史料館に収蔵展示され、豊原史跡保存会の協力により保存継承の取組みが行われている。

④神の島・雄島を抱く海とともにある暮らし

《ストーリー》

坂井市北西端、日本海に浮かぶ雄島は、延喜式内社である大湊神社が置かれ、古くから海上守護の神の島として人々の厚い信仰が寄せられてきた。また、ヤブニッケイなどの常緑広葉樹林が繁茂し、島の南部には板状節理と柱状節理が見られ、瓜割水が湧き出るなど、植物地理学上および地質学上貴重な自然の宝庫でもあり、当関連文化財群の中核をなす。

先史時代からの歴史を有する雄島地区北部の集落は、近世まで磯浜漁業と交易労務を担い、男性はすぐれた航海技術を生かして船員として活躍し、三国湊の繁栄を支えた。多くの女性が従事してきた海女漁は現在も継続され、塩雲丹や魚の塩炒りなどの食文化をはじめ、特有の生活文化を今日に伝えている。とりわけ、雄島北部最大集落である安島には、特有の習俗や方言（安島弁）がみられる。

《主な構成文化財》

■信仰の中心・大湊神社

大湊神社には、福井藩2代藩主松平忠直まつだいらただなおが願主となり造立した神社本殿・拜殿（県指定建造物）や木造神像伊邪奈岐命（県指定彫刻）などの神像、室町時代に遡るとも言われる獅子頭（市指定彫刻）などの指定文化財以外にも、だけ高村を御旅所として旧安島雄島郷の神領の村々を渡る春の神事であるお獅子祭（神幸祭・「おしっさま」）や、安島区青年団による獅子舞や船神輿（男みほだいみょうじんじやりょうえず神輿）・女神輿・子供神輿が練り歩く例祭（雄島祭り）といった祭礼、三保大明神社領絵図などの歴史資料など、未指定文化財も数多く存在する。



写真74 大湊神社本殿（三国町安島）



写真75 大湊神社獅子頭（三国町安島）

■海女の生活文化や漁村の暮らし

北前船交易が盛んだった江戸時代から明治時代にかけて、海運従事者の多かった安島地区に東北地方から伝わったとされる盆踊り唄・なんぼや踊り唄（県指定無形民俗文化財）や明治時代の漁村民家である西野家住宅（安島／市指定建造物）、雄島海女の素潜り漁と加工技術（県指定無形民俗文化財）といった指定文化財のほか、雄島地域には、航海に出た男性を思い海女仕事の合間に作業着の補強や保温用に施した刺子の技術（未指定）が伝わっている。



写真76 なんぼや踊り唄（三国町安島）



写真77 安島の刺子「モッコ」(昭和10年代) (みくに龍翔館所蔵)

《保存・活用に関わる活動・団体や拠点施設》

なんぼや踊り唄の保存継承を目的としたなんぼや保存会や安島太鼓（雄島太鼓）継承のために活動する安島太鼓保存会のほか、一度途絶えていた安島の刺子を復活し次世代に継承するべく「安島モッコの会」が発足し、体験教室や作品づくりなどの活動を積極的に展開している。また、安島地区住民が加入する「安島を考える会」は平成6（1994）年から広報紙「あんでな」を年4回発行し、地域の歴史や文化についての記事を随時掲載している。

越前松島水族館では、磯の生物観察会や地引網体験、珍しい海の生き物などの展示が行われており、雄島地域の自然や生物に親しむ拠点となっている。



写真78 大湊神社例祭での安島太鼓の披露



写真79 安島モッコの会による講習会

関連文化財群④ 神の島・雄島を抱く海とともにある暮らし

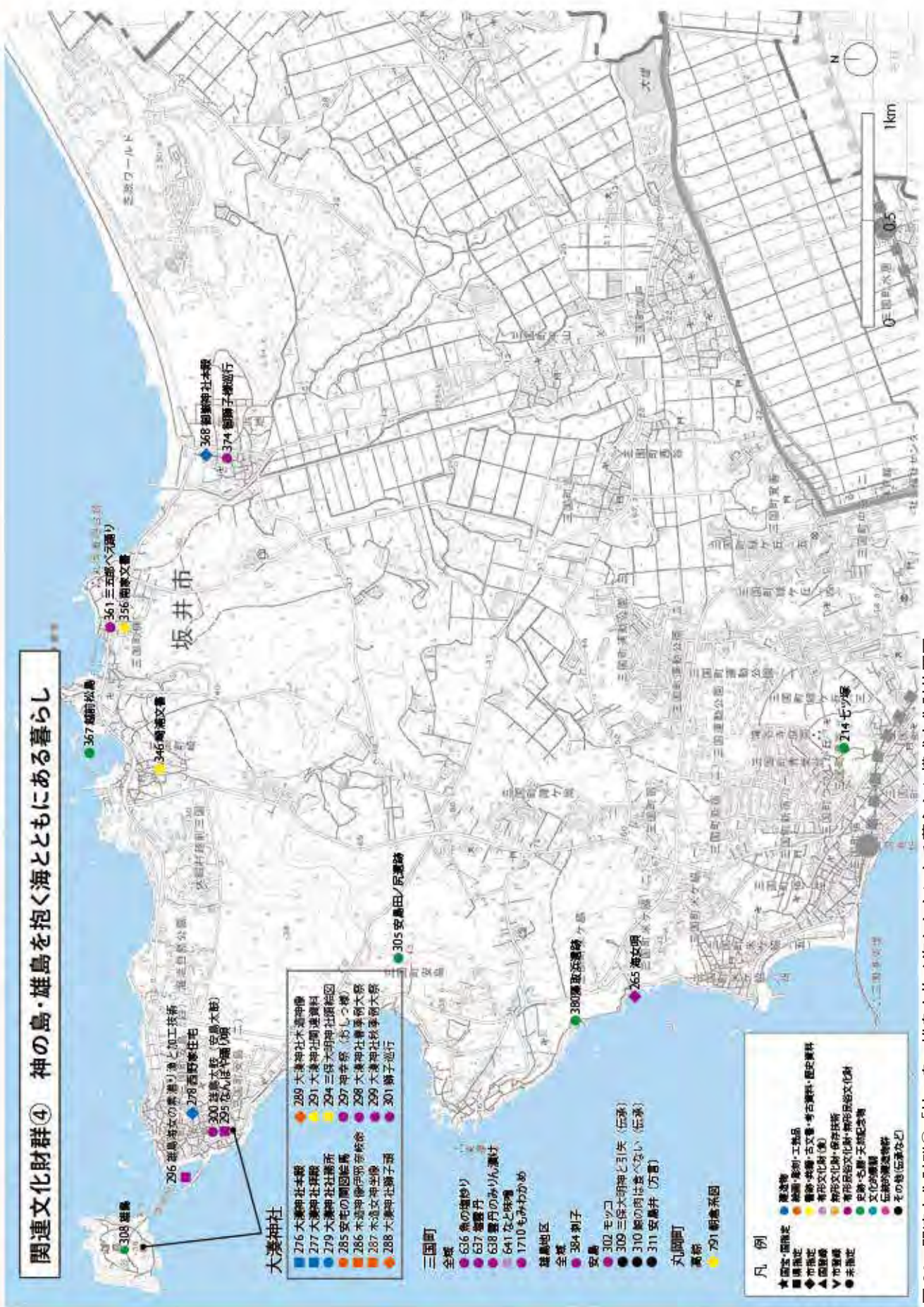


図 34 関連文化財群④「神の島・雄島を抱く海とともにある暮らし」構成文化財位置図

⑤里山・里川に育まれた赤瓦集落・竹田

《ストーリー》

坂井市東部、石川県との県境に位置し、丈競山や火燈山などに囲まれ、盆地状に開けた山間地域である竹田地区は、集落を縫うように流れる竹田川と里山、加賀文化の影響を受けた赤瓦の民家群が固有の集落景観をつくり出している。かつて白山信仰の拠点のひとつであった吉谷寺跡、福井県最古の民家で江戸時代の建築とされる坪川家住宅、加賀の影響も受けると伝わる盆踊り・竹田じょんころなど、多様な歴史文化がゆたかな自然とともに息づく。

《主な構成文化財》

■坪川家住宅

「千古の家」と称される県内最古の茅葺き民家・坪川家住宅（国重要文化財建造物）や坪川氏庭園（国登録記念物）といった指定等文化財に加え、工芸品や古文書などの未指定文化財も坪川家住宅保存会によって保存されており、有料で公開されている。

■山岳信仰・社寺

竹田地区には白山をはじめ山を神とあがめる山岳信仰の証が残っている。豊原千坊とともに「豊原三千坊」と称されたという吉谷寺跡（市指定史跡）、小野千坊跡（未指定）があり、吉谷寺跡には仏堂と神社が残る。また、絵画や古文書、歴史資料などが残されており、いずれも未指定であるが地域の信仰の拠りどころとしての歴史文化を伝える貴重なおたからである。



写真 80 坪川家所蔵の美術工芸品



写真 81 吉谷寺跡（丸岡町吉谷）

■加賀文化の影響

竹田地区には入母屋の民家が多く、加賀文化の影響を受けたと考えられる赤瓦屋根民家や入母屋民家 41 棟が、平成 26（2014）年に福井県伝統的民家群保存活用推進地区に指定された。また、竹田地区の盆踊り・竹田じょんころ（市指定無形民俗文化財）も、加賀の影響を受けているという説もあり、坂井市内でも特異な地域特性が反映された歴史文化を有する地区である。



写真 82 竹田地区の赤瓦屋根民家



写真 83 竹田じょんころ

《保存・活用に関わる活動・団体や拠点施設》

竹田地区のほぼ全戸の住民が加入する竹田文化共栄会を中心に、子どもや若者の育成やグリーンツーリズム、食や福祉など、各種団体と連携しながら幅広い地域づくり活動を展開している。竹田のしだれ桜まつりは春の風物詩となり多くの人に親しまれているが、しだれ桜の植樹活動や沿道への花の植栽なども竹田文化共栄会によるものである。

竹田じょんころは、竹田音頭保存会によって保存継承活動が行われているほか、竹田の里づくり協議会では、旧吉谷村歴史探索道の整備に取り組んでいる。

また、地域おこし協力隊や緑のふるさと協力隊の受け入れや、関西方面を中心とする大学生が地区の空き家に共同で住み込み、市民や行政と連携して地域づくりに取り組む「竹田Tキャンプ」の誘致など、地域外の若い人材の活躍の機会を積極的に創出し、将来の地域づくりの担い手育成を目指している。

平成22(2010)年に休校になった旧竹田小学校をリノベーションして誕生した体験型宿泊施設「ちくちくぼんぼん」は、竹田ならではの豊かな自然や文化を味わうことのできる体験プログラムが充実し、近年では木育をテーマにしたスペースも設けられ、多世代が楽しめる活動が展開されている。



写真 84 竹田しだれ桜まつり(丸岡町山竹田)



写真 85 竹田Tキャンプの活動

■関連する人物一覧

渡辺茂十郎

⑥丸岡城下町の形成と丸岡藩ゆかりの文化

《ストーリー》

北陸唯一の現存天守である丸岡城天守と城郭、城下町形成の礎となった中世の一大宗教都市・豊原寺に関する文化財群、さらに三国地区などに分布するかつての丸岡藩領に息づく歴史的建造物などを主要な構成文化財とする関連文化財群。丸岡城天守をはじめ、城下町地区の建造物は福井大地震の影響を大きく受けたが、掘などの水路の一部や地割、寺院群などが城下町の歴史を今に伝えるとともに、城下町地区を核としながら、丸岡藩にゆかりの構成文化財が市域の広範囲に分布しているという特徴がある。

《主な構成文化財》

■丸岡城と城下町・丸岡藩主

丸岡城天守（国重要文化財建造物）を核とする城郭、旧丸岡城不明門（丸岡町野中山王）^{きゅうまるおかじょうあかぎのもん}や福井口門跡（丸岡町谷町）^{まるおかじょうしものうねぐちもんあと}、丸岡城下長畝口門跡（丸岡町荒町）、田島川の一部を含む外堀などの城下町の遺構、寺社地を含む文化財群。ほとんどの建造物が昭和23（1948）年の福井地震による倒壊や火災などにより大きな被害を受けたが、寺社の建造物は再建復興された。

丸岡藩主に関するおたからとしては、江戸時代初期の藩主であった本多家の歴代墓所（市指定史跡）が本光院（丸岡町巽町）に、元禄8（1695）年から明治時代はじめまでの藩主であった有馬家の歴代墓所（市指定史跡）が高岳寺（丸岡町篠岡）^{こうがくじ}にある。

日向国延岡から国替えとなった有馬清純公が、随行した舞人に祭礼で奉納させたことに由来する日向神楽（県指定無形民俗文化財）は今日に継承され、長畝八幡神社で奉納されている。



写真 86 旧丸岡城不明門（丸岡町野中山王）



写真 87 高岳寺（丸岡町篠岡）

■豊原寺と丸岡城下町形成のつながり

柴田勝豊が豊原に築いた城を丸岡に移した際、職人や寺社が豊原から丸岡の城下へ移ったが、中でも西得寺（丸岡町谷町）や安楽寺（同石城戸町（中石城戸））には豊原由来の多くの彫刻や工芸品が伝わっている。他にも國神神社には、神仏習合の白山信仰を描いた絵画である絹本著色白山参詣曼荼羅（県指定絵画）は、が伝わっており、丸岡城下町形成に豊原の影響があったと考えられる。



写真 88 西得寺 薬師如来立像（丸岡町谷町）

■丸岡藩領の展開

幕藩体制において、坂井市域は幕府直轄領、福井藩領、丸岡藩領などが入り組んで分布していたが、丸岡藩は、三国湊を外港とした福井藩と港の権益をめぐる争いを続けた。三国湊に接する滝谷出村は花街として栄え、今も残る町家の町並みはその名残を伝えている。また、幕末には梶浦に砲台を設置し、丸岡藩砲台跡として国史跡に指定されている。



写真 89 出村の町並み

《保存・活用に関わる活動・団体や拠点施設》

日向神楽については、長畝日向神楽保存会による後継者育成が行われており、長畝日向神楽伝承館には舞に使う道具や衣装などが展示されている。

城下町エリアでは、城のまちまちづくり協議会により、丸岡中学校や平章小学校向けに歴史学習会を開催したり、お天守歴史めぐりスタンプラリーを実施したりしている。丸岡町内の小学校による丸岡古城まつりでの親子総踊りの披露や、平章小学校による清掃活動の実施など、学校教育との連携協力も盛んである。また、来訪者向けには、丸岡観光ボランティアガイドのほか、丸岡城天守を国宝にする市民の会により、城下町や丸岡藩ゆかりの歴史文化を発信するさまざまな活動が行われている。

城下町エリアの拠点施設として、丸岡歴史民俗資料館、一筆啓上 日本一短い手紙の館や丸岡バスターミナル交流センターといった公設施設のほか、丸岡城天守を国宝にする市民の会が運営する城小屋マルコが情報発信・城ファンの交流拠点となっている。

豊原エリアでは、のうねの郷づくり推進委員会によって、歴史講座・のうね郷史の開催や山城跡遊歩道整備などが行われているほか、長畝小学校による豊原古道散策が実施されている。また、豊原三千坊史料館が歴史文化を伝える拠点施設となっている。



写真 90 城小屋マルコ (丸岡町霞町)

■関連する人物一覧

齋藤実盛	柴田勝豊	有馬清純
有馬允純	有馬誉純	青山宗勝
今村盛次	本多成重	本多重能
本多重昭	本多重益	明智光秀
新田義貞		

⑦北前船交易がもたらした湊町三国の発展

《ストーリー》

古代から川湊として発展した三国湊は、江戸時代末から明治時代初期に最盛期を迎えた北前船交易により繁栄し、有形無形のさまざまな歴史文化が育まれてきた。廻船業などにより財をなした豪商らが支えた寺社や祭礼、北前船の歴史を伝える古文書や絵画、箆筒や仏壇などの工芸技術や文芸、唄など、北前船交易による文物の往来のなかでもたらされ、今日まで継承されてきた三国湊の歴史文化を包含する関連文化財群。平成30(2018)年には日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に三国湊が追加認定され、19件の歴史文化が構成文化財として認定された。「帯の幅ほどのまち」と称されるほど細長い旧市街地に、多様で数多くのおたからが息づく。

《主な構成文化財》

■北前船船主らが寄進した寺社群

三国湊の総氏神・山王宮を祀る三國神社は、江戸後期に豪商内田惣右衛門らにより境内の整備や社殿の改装などが行われ、特に、隨身門（県指定建造物）は多くの町衆の寄進と地元大工の技によって建造された。三國神社例大祭（三国祭）（県指定無形民俗文化財）は、北前船船主でもあった町衆が山車人形や舟神輿などを奉納した祭りで、約300年の歴史を有する。新保春日神社や大湊神社も船主らの篤い崇敬を集め、航海安全が祈願された。こうした神社には、船主らが自船を描いて奉納した多くの絵馬群が伝わっている。

また、北前船交易で得た財をもとに多くの寺院が寄進された。新保の有力商人らが寄進した瀧谷寺（国重要文化財建造物など）をはじめ、三国にはおよそ30もの寺院が設けられ、現在も町並みの重要な要素となっている。



写真 91 三國神社隨身門（三国町山王）



写真 92 船絵馬（大湊神社所蔵）

■工芸や文芸の発展

湊町の隆盛は、多くの工芸技術や文芸の発展をもたらした。北前船航海時の必需品とされた船箆筒には、地元職人らにより洗練された彫刻や装飾が施された。また、三国の高い工芸技術がいかされた三国仏壇も、北前船により加賀橋立などに運ばれた。三国の高い工芸技術は、各区が保有する三国祭の山車屋台にも見てとることができる。

北前船による文物の交流は、船乗りによって南部地方から雄島地区に伝わったとされるなんぼや踊り唄（県指定無形民俗文化財）や船頭・水主の祝い唄、起舟の船祝いの席で唄われたいざき（市指定無形民俗文化財）、船唄由来とされる三国の座敷唄である三国節（市指定無

形民俗文化財)などの多彩な芸能を生み出した。



写真 93 三国仏壇
(みくに龍翔館所蔵)



写真 94 春日神社で奉納される「いざぎ」
(三国町新保)

《保存・活用に関わる活動・団体や拠点施設》

三国祭の保存、振興および市民の三国祭に対する意識向上、地域の活性化を図るため、三国地区の各区長や三國神社、商工会や観光団体などが参画した三国祭保存振興会が組織されている。また、三国祭囃子初香会が、山車の囃子方育成を行っている。市指定無形文化財であるいざぎ、火の太鼓、三国節については、いずれも各保存会が保存継承のための活動を行っている。

日本遺産については、全国で48の市町が連携している北前船日本遺産推進協議会に加盟し、平成30(2018)年には「第24回北前船寄港地フォーラム in 坂井市三國湊」を開催するなど、日本遺産北前船に係る各種事業を推進している。

三国港(旧阪井港)突堤(国重要文化財建造物)については、三国港突堤ファンクラブが結成され普及啓発のための活動が行われている。

来訪者向けには、ボランティアガイドきたまえ三国による観光ガイドが行われているほか、三国節の三味線と笛の音色とともに歴史的町並みをゆっくりと踊り流す「帯のまち流し」は初秋の三国湊の風物詩となっている。

三国湊のみならず坂井市全体の歴史や文化に関する資料を収集・保存・活用する博物館であるみくに龍翔館を核としながら、三国湊町家館(旧梅谷家住宅)やアーバンデザインセンター坂井(旧佐藤家住宅)など、三国の伝統的な町家を改修整備した公設の施設や、マチノクラなどの民設ミュージアムが、観光やまち歩き拠点となっている。



写真 95 三国祭保存振興会による山車巡行



写真 96 三国祭囃子初香会による囃子方の育成指導

⑧文学者・芸術家を魅了したゆたかな自然が織りなす風景

《ストーリー》

北前船交易の時代、三国の商人らは自ら文芸を嗜み、俳諧結社「日和山吟社」^{ひよりやま}の活動を展開した。昭和に入り、戦時疎開で三国に寄寓した三好達治の影響により、多くの詩人、作家や画家が三国に集い作品を残した。こうした作品のインスピレーションの源となった、天下の奇勝と称される東尋坊や雄島、越前松島などのゆたかな自然の風景、さらに作品群と作家らゆかりの地から構成される関連文化財群。多くの歴史資料や作品群がみくに龍翔館に収蔵されている。

《主な構成文化財》

■俳諧・詩人の活躍と文芸の発展

近代三国における文学隆盛の素地ともなったのが、近世以来の俳諧結社「日和山吟社」^{ひよりやま}であり、その拠点となった日和山（日本遺産構成文化財）のある金鳳寺である。三好達治の寄寓をきっかけに三国で結成された文学サロン「三国地方文化会」^{ゆいしょうじ}では、唯称寺を拠点にフランス文学や外国語講座、貸本屋運営などが行われた。また、三好達治と丸岡の中野重治が三国で交流するなど、作家同士の交流も見られた。

作家らゆかりの地として、高見順の生家が三国町北本町に現存するほか、三好達治や高浜虚子、森田愛子らの文学碑の多くは東尋坊の荒磯遊歩道沿いに建てられている。



写真 97 三好達治
(濱谷浩撮影©片野恵介)



写真 98 高浜虚子・伊藤柏翠・森田愛子の句碑

■坂井市ゆかりの画家とその作品

青森県生まれであるが、その人生のほとんどを三国で過ごした画家・彫刻家の小野忠弘の作品群は、小野の住居兼アトリエを改修したONOメモリアルに展示されている。また、三国出身の新道繁や大沼静巖^{おおぬまじょうごん}などの画家が東尋坊や雄島、三国の漁港などの風景を描いた絵画がみくに龍翔館に収蔵されている。

丸岡生まれの南画家である山田介堂は、晩年三国や芦原に滞在し作品を描き、瀧谷寺に筆塚や句碑が残されている。



写真 99 山田介堂筆塚(瀧谷寺)

《保存・活用に関わる活動・団体や拠点施設》

本市ゆかりの作家に関する活動団体として、中野重治の会や、三好達治の詩を読む会、開高健文学顕彰会があり、丸岡高校では中野重治生家跡の清掃活動が行われているほか、偉人たちを偲び、郷土の文学や文化を継承するために記念講演会や行事などを開催している。また、小野忠弘画伯を顕彰するとともに、クリエイティブを生み出す若い力と才能を発見し、育てることを目的に、北陸三県高校生現代アートビエンナーレが開催されている。

みくに龍翔館やONOメモリアルといった拠点施設のほか、丸岡図書館に中野重治記念文庫、小葉田淳文庫と作曲家今川節の部屋が、春江図書館には、古谷綱武、吉沢久子文庫が設けられている。また、マチノクラでは三国のまちゆかりの文学者と作品を映像や展示で紹介している。



写真 100 北陸三県高校生現代アートビエンナーレの作品
(三國神社境内)



写真 101 中野重治記念文庫（丸岡図書館内）

■関連する人物一覧

高見順	三好達治	森田愛子	岡部文夫	皆吉爽雨	則武三雄	山口誓子
大森杏雨	多田裕計	小野忠弘	新道繁	中野重治	今川節	大沼静巖
高浜虚子	伊藤柏翠					

⑨鉄道の開通と近代に開花した坂井市の産業と文化

《ストーリー》

河川や道路などのインフラストラクチャの近代化が進む中、航路が主役であった物流は近代に入り鉄道や道路といった陸路に代わり、都市の産業も大きく変化した。海運の港であった三国は主要鉄道網から外れ、漁港へと転換したが、時代の波をくぐり抜けた商人らによって建てられた近代建築は今日もまちのランドマークとなっている。一方、福井に近い春江や丸岡では、鉄道の輸送力をいかし春江ちりめんや細巾織物などの繊維産業が隆盛をほこった。こうした近代の歴史文化と、戦後直後に発生した福井大地震からの復興に関するおたからを含む関連文化財群である。

《主な構成文化財》

■インフラストラクチャの近代化

三国の悲願であった三国港（旧阪井港）突堤（国重要文化財建造物）の完成は、海運交易の円滑化の切り札とされたが、国策として進められた鉄道網の敷設は、重要港を結ぶ計画から全国を鉄道でつなぐ計画へと方針転換し、三国港は物流の表舞台から去ることになった。北陸線金津駅（現・JR 芦原温泉駅）から海陸連絡線として敷いた三国支線開通時に設置された跨線橋・眼鏡橋（国登録建造物）や、旧国鉄との立体交差のために設けられた三国芦原電鉄（のちの京福電鉄）跨線橋跡（未指定）、旧丸岡鉄道福島橋梁跡（未指定）などが本市における鉄道敷設の歴史を物語る。

坂井市域では明治30年代以降九頭竜川の改修が進められたが、鳴鹿堰堤（旧十郷大堰）は度重なる洪水による決壊を起こし、昭和20（1945）年の洪水で完全に流出した。昭和30（1955）年、酒井利雄氏らの手により近代的頭首工を備えた可動式堰堤として完成した。



写真 102 えちぜん鉄道三国港駅（三国町宿）



写真 103 三国芦原電鉄（のちの京福電鉄）跨線橋跡（三国町つつが丘）



写真 104 旧鳴鹿堰堤



写真 105 十郷橋（坂井町宮領）

道路の近代化に関するおたからとしては、坂井町宮領の十郷橋（未指定）がある。国内初のポストテンション方式を採用した現存最古のPC（プレストレストコンクリート）造の道路橋で、我が国のPC構造物の礎を築いた橋として土木学会の選奨土木遺産に認定されている。

■近代産業の発展

坂井市における産業の近代化を牽引したのが春江や丸岡における繊維産業である。春江では明治20年代から絹織物の製織が始められ、特に江留上地区を中心に大正時代後期からちりめん生産が開始され、昭和40年代には県内第一、また着物の裏地用ちりめんとして全国生産の約7割を占めていた。大正15（1926）年に開業した国鉄春江駅の誘致には織物組合も尽力した。福井大震災による工場などの倒壊や火災、産業構造の変化によって多くの建造物が失われたが、数軒の元ノコギリ屋根工場とちりめん織機が残されている。

ちりめん産業で財をなした島崎家の邸宅離れ（未指定）は市の所有となっており、ちりめん産業の歴史を物語る貴重なおたからとして今後の保存活用が期待される。丸岡では明治末頃から細巾織物の製造が盛んになり、代表的な織マークの生産地である。

また、一次産業では、漁業だけでなく三里浜のらっきょう栽培も近代に入って開始され、足かけ三年で育てられる「三年子らっきょ」は福井県の伝統野菜「福井百歳やさい」に数えられている。



写真 106 春江ちりめん

《保存・活用に関わる活動・団体や拠点施設》

三里浜のらっきょう栽培に関しては、三国西小学校のふるさと学習として、体験活動が行われている。

旧丸岡鉄道本丸岡駅跡に整備された丸岡バスターミナル交流センターには、観光情報の提供や飲食スペース、イベントなどに活用できる多目的スペースなどが設けられ、市民や来訪者の交流拠点として活用されている。また、JR丸岡駅やえちぜん鉄道三国港駅には展示室が設けられ、地域の歴史やまちづくり活動、観光情報を発信する拠点となっている。

本市の農産物や海産物は、ふれあいパーク三里浜（道の駅みくに）や道の駅さかい内の坂井地域交流センターいねす、ゆりの里公園農産物直売所ゆりいちなどで販売されている。



写真 107 丸岡バスターミナルでのイベントの様子

■関連する人物一覧

エッシャー（エッセル）

デ・レイケ

杉田定一

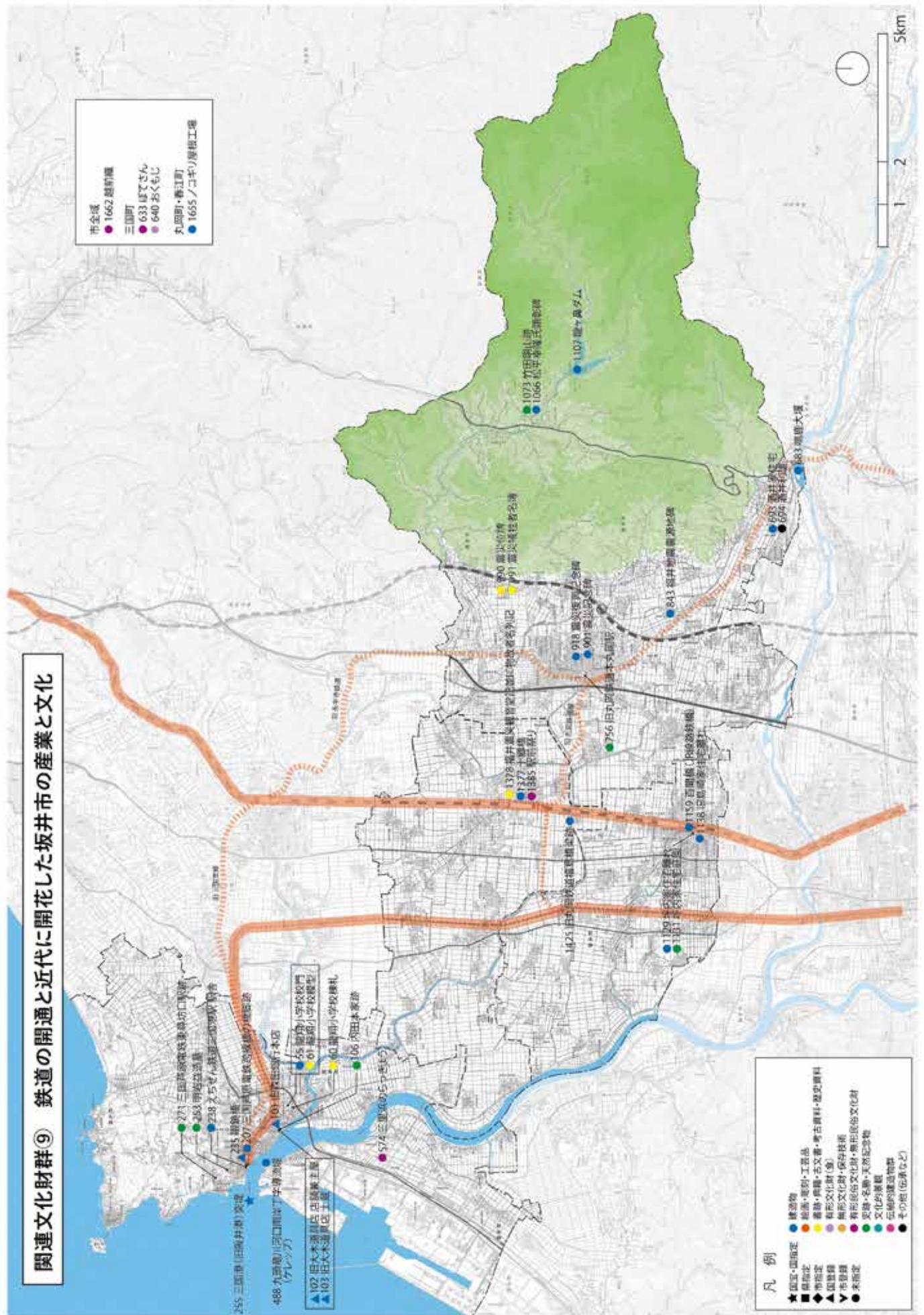


図 39 関連文化財群⑨ 「鉄道の開通と近代に開花した坂井市の産業と文化」構成文化財位置図

2. 文化財保存活用区域

(1) 文化財保存活用区域設定の考え方

文化財保存活用区域は、おたからが特定の範囲に集積している場合に、当該文化財群をその周辺環境も含めて面的に保存・活用するために設定するものである。坂井市文化財保存活用区域は、本市固有の歴史文化を語るおたからが集積しているエリアにおいて、核となるおたからを中心に、歴史文化をいかしたまちづくりや観光・交流の拠点として魅力的な空間の創出を図ることを目的に、以下の3つの観点を基準として設定した。

- a) 本計画の計画期間（令和4年度から令和13年度）において、文化財部局のみならず市として重点的におたからの保存・活用によるまちづくりを推進するエリアであること。
- b) 既存の計画や条例により、建築行為や景観形成への規制や誘導が図られている場合には、その範囲を包含したエリアであること。
- c) ガイダンス施設など、おたからの保存・活用の拠点となる施設が存在する、または整備予定のエリアであること。

上記の基準により、以下の4つの文化財保存活用区域を設定した。

- A 東尋坊と雄島地区文化財保存活用区域
- B 三国湊地区文化財保存活用区域
- C 丸岡城下町地区文化財保存活用区域
- D 鳴鹿地区・東部山麓古墳群文化財保存活用区域

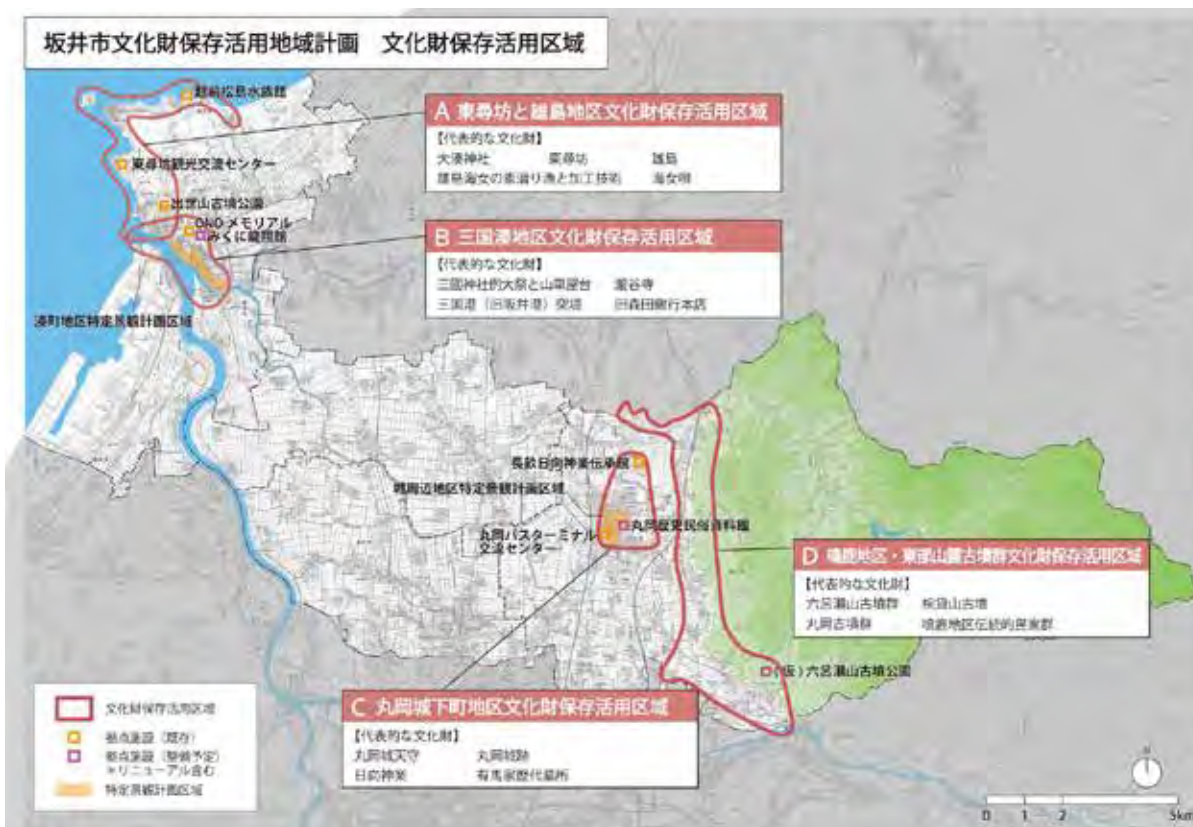


図 40 坂井市文化財保存活用区域位置図

これら4つの区域では、それぞれ国指定文化財をはじめとする核となるおたからが存在しており、観光資源としての活用が進みつつあるが、指定年代が古いおたからでは、保存活用計画（旧保存管理計画）の策定が行われていないなど、その本質的な価値の顕在化と共有が十分に行われておらず、価値を適切に継承するための保存・活用に計画的に取り組むことが急務となっている。

なお、上記の4区域は、今期計画において定めるものであり、次期以降の計画（計画期間は令和14年度以降）においては別途新たな区域を設定することも考えられる。当計画においては、関連文化財群および4つの文化財保存活用区域を設定することで坂井市の歴史文化を活かしたおたからの総合的・一体的な保存と活用を戦略的に推進するとともに、進捗が遅れがある分野や地域のおたから把握調査やおたからの掘り起こしを継続しながら、未指定文化財の指定・登録や既指定文化財のさらなる価値の顕在化を進め、次期以降の計画における新規の区域設定も見据えて事業に取り組むものとする。

(2) 各文化財保存活用区域の概要

A 東尋坊と雄島地区文化財保存活用区域

当区域は、東尋坊・雄島、越前松島を含む雄島地区の集落や古墳群を含むエリアで、本市のみならず福井県を代表する観光地である東尋坊をはじめ、越前松島水族館、海浜自然公園など観光資源も豊富である。また、雄島地区の各集落にみられる海女の生業に関するおたから風景は坂井市域の中でも当区域固有のおたからである。

東尋坊については、交通ステーションやビジターセンターの設置、商店街のリニューアルなどの周辺整備が進んでいる。

B 三国湊地区文化財保存活用区域

当区域は、三国旧市街地を中心に、九頭竜川を挟んだ対岸の新保地区を含むエリアであり、平成30（2018）年に追加認定された日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の構成文化財の多くが当区域内に存在する。また、三国旧市街地は、北陸三大祭として知られる三國神社例大祭（三国祭）の舞台でもある。

三国旧市街地においては、旧三国町が景観まちづくり条例を制定し、地元地区と締結した景観づくり協定をもとに景観形成事業が実施されてきた。平成17（2005）年からは街並み環境整備事業が開始され、道路のカラー舗装や歩道の石畳化、店舗や民家のファサード部分の美装化を実施し、翌年の合併後も坂井市が事業を引き継いでいる。平成20（2008）年に策定した景観法にもとづく景観計画において、三国旧市街地を「湊町地区特定景観計画区域」に指定し、地区特性を活かした湊町らしい景観づくりを進めるため、きめ細かな景観誘導を行っている。

C 丸岡城下町地区文化財保存活用区域

当区域は、核となる丸岡城天守、城郭城下図に描かれた外堀・城下町を含む範囲を中心として、丸岡藩の歴史文化の保存・活用の主要な要素である寺院群や日向神楽が奉納される長畝地区の集落を含むエリアである。城郭一帯は霞ヶ城公園として都市公園となっており、近年整備された二次交通の拠点である丸岡バスターミナルを起点として、丸岡城天守を中心とする観光交流の充実や周遊性の向上を目指したさまざまな取組みが官・民あげて進められている。

明治以降の市街化に伴って内堀はすべて埋め立てられ、さらに昭和23（1948）年に発生した福井地震の甚大な影響を受け、城下の社寺建造物なども壊滅的な被害に遭ったが、当区域に含まれる坂井市景観計画における「城周辺地区特定景観計画区域」では、城下町らしい景観づくりを目指した景観誘導をはかっている。指定区域内の道路や小公園、集会所などの地区施設の修景整備や、武家屋敷地区、町家地区それぞれの特性に調和した民間建築物の修景等に対する助成などが行われている。

D 鳴鹿地区・東部山麓古墳群文化財保存活用区域

当区域は、国史跡・六呂瀬山古墳群を核としながら、丸岡町東部山麓部に分布する一連の古墳群を含むとともに、坂井平野を潤す水脈の要である鳴鹿大堰と越前型農家建築の特色を有する家屋が点在する鳴鹿地区の集落を包含するエリアである。

市内唯一の造り酒屋である久保田酒造や、鳴鹿大堰の近代化に貢献した酒井利雄氏の自邸といったおたからも存在し、これらの保存・活用を進めることで、新たな地域づくりの展開が期待される。